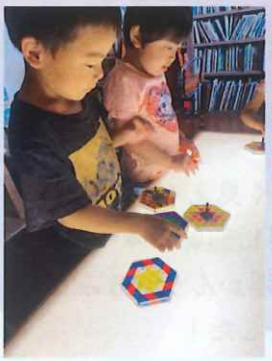
令和6年度　東京すくわくプログラム活動報告
仁慈保幼園　多摩川保育園

テーマ「光・影」

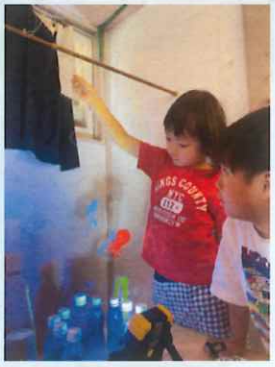
様々な素材や経験から出会う光と影の特性や特徴等、子どもたちの興味関心をより深めるため。

＜10月までの姿＞



⇧プリズモを作成し光に当てて光らせたことから、ラミネートフィルムに曼荼羅を描き、光らせる遊びに発展。

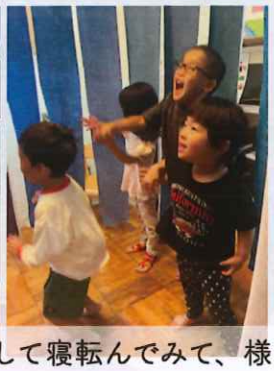
⇩左の光の遊びが、切り紙や色水を光らせることに繋がり、白い壁に影を映し出し、影の形や光の色合いを楽しんだり、光らせた物の美しさを感じたりしていました。



上記のように、作った物を光に当てて美しい世界観を作り出したり、色への興味が深まっていきました。そんな子どもたちの姿から、10月19日に行ったコッコロ・フィラーレでは、色や光、影にアプローチするコーナーを作りました。

「同じ色でもよく見たら違うんだ！」「似ているようで違う」と色には奥深さがあることを知ってほしいという思いや、光が融合することで表現の幅を広げてほしいという願いを込めてコーナーの内容を考えました。

＜コッコロ・フィラーレの様子＞

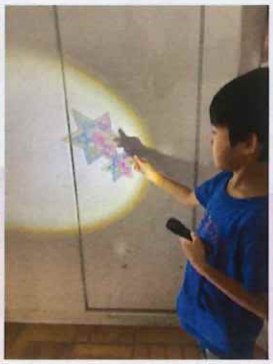


色の細かな違いを感じてほしい思いから、子どもたちが入り込める大きさで寒色と暖色の円柱を作成しました。

円柱の中に入ると「うわ～！」と声を出し、目の前に広がる沢山の色に目を輝かせていました。

立って、座って、そして寝転んでみて、様々な角度から楽しんでいました。「赤の方が広かった」「青狭い…」と、色によって広さの感じ方が違うことを話す姿もありました。

光に映し出すと美しいものを集め、影をダイナミックに映すために、白い布に覆われた空間を作りました。



Tくんは黙々と光を当てて光の当て方による見え方の違いを楽しんでいるようでした。Mちゃんは色々試し、友だちに「これが綺麗だよ」と教えていました。

好きな色水のボトルを一本選び、ライトの上に並べて、色水の道を作りました。

Yくんはボトルを立てた時と寝かせた時の色の見え方の違いに気付いて不思議そうにしていました。

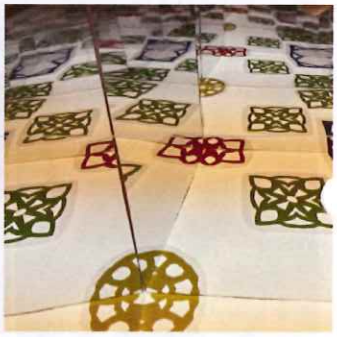
折染をした和紙でランプを製作し、吊るした場所に、鏡を設置しました。

Tくんは上下を見比べて「下は小さく見える！」と違いに気付いていました。また、鏡の世界に興味津々でKちゃんは「キラキラしてる！」Aくんは「浮かんでいるみたい！」と発見を嬉しそうに話していました！

ライトテーブルの光を活用し、様々な素材で光の遊びが楽しめるコーナーを用意しました。

カラーセロハンの上に砂を敷いて、砂絵が出来るテーブルです。
友だちと一緒に砂に触れ、砂の中から光が出てくると、「火みたい！」「海みたい！」と話していました。

合わせ鏡や３角柱などの鏡を用意し、押し花や切り紙を並べて万華鏡のように見え方を楽しむコーナーです。



Yちゃんは、ワクワクした表情で鏡の微調整をしながら、出来上がる模様をじっくり見ていましたよ。

オイルに色水を垂らして遊ぶコーナーは大人気でした。

Yちゃんは黙々と色水を垂らしていましたが、二つの色が混ざり合った瞬間にパッと笑顔になりました。その後も繰り返し色を混ぜ、じっくりと色の変化を見ていました。

今までに知っていた色の名前や普段楽しんでいる遊びを思い出し、今までの経験と目の前に広がる世界が繋がっているようでした。「綺麗」の一言だけでなく、「この色は濃いから好き」「虹色みたいな青！」と感性豊かに感じ、言葉で表現している姿が印象的でした。

テーマ：表現「転がる・回る面白さ」

きっかけ

ビー玉転がしをクアドリアや積み木を使って室内で楽しむ姿が見られていました。年中・年長児は昨年から引き続き大きなコースや複雑なコースを作って遊んでいますが、年少児も以上児クラスに移行して年上の子の様子を見て、興味を示しています。４月当初は自分たちで作ることは難しく、保育士や年上の友だちにコースを作ってもらっていたのですが、次第に自分たちでも作ろうと、クアドリアのパーツを繋げたり積み上げたりしていました。高さを変えても必ずビー玉が落ちてくることが面白いようで、穴からビー玉が出てくると「おお！」と声をあげて楽しんでいました。

コマ回しに挑戦！！　2025.4.23（水）

また、コマ回しも流行っていました。日々コマ回しに励み、木ごまや缶ゴマを使い回す子もいれば、光るコマを回して綺麗に光る見え方を楽しむ子もいました。紐ごまに挑戦する子もいる中、紐を巻くことやコマを回すことに難しさを感じながらも諦めずに何度も挑戦する姿が印象的でした。毎日の苦戦と試行錯誤の中、初めて年長児が紐を巻けるようになり、自信を持って取り組みます。コマを回すことにも何度も挑戦し、コツを掴んで回し始めると、その子に刺激を受け、自然と人が集まり、コマ回しが大盛り上がりでした。自信がついた年長児は「集まりで発表したい」と話し、みんなの前で発表するために練習を重ねています。

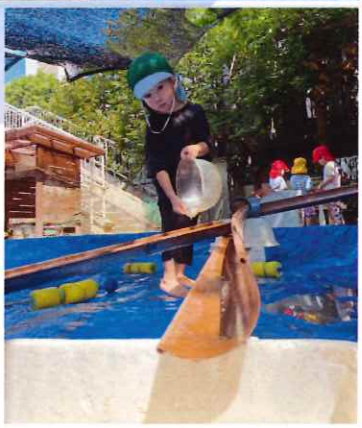
水のピタゴラ

室内でピタゴラを楽しむ姿があったため、園庭での遊びも繋がっていくことを予想し、水のピタゴラができるように雨樋や発泡スチロールなどを準備しました。水のピタゴラでは、水を高い位置から流して"流れ"を楽しんでいました。水が流れているところに空のペットボトルを置くことで水と一緒に物が流れていくことにも気づき、何人かでペットボトルに水を入れて一気に流し、どうすればペットボトルが速く流れるかを考えていました。

水路作りの試行錯誤

2025.9.1（月）

年長児が雨どいを使って水路作りを始めました。一人でせっせと始めていたのですが、水路が大きくなっていき、他の友だちも参加し始めました。発泡スチロールの箱に水を流すには、水の合流部分の高さが重要です。大人にはやり方が一目瞭然でも「こぼれてる！」「あ～!!」と苦戦していました。どうしたら良いかという解決法ではなく「ここから溢れちゃってるよ」「こっちはどう？」と保育士も話しながら試行錯誤していくと、水を流すところの高さを高くしたり、接続部分のパーツを変えたりして問題解決！見事、箱いっぱいに水が溜まりました。水路作りもそうですが、どうやって水を運ぶか、何を使ったらいいのかなど、出てきた課題を一緒に解決することも楽しんでいたように感じます。



この日は早速雨樋を用意して水路を作っていました。年長児、年中児、年少児が揃うことで互いにアイディアを出し合い、雨樋や発泡スチロールを組み合わせるなど工夫することを楽しんでいました。水路が完成するとスポンジでできたボール（水鉄砲の持ち手になっていた部分）を転がしてボールの流れを楽しんでいました。これまでは、水を流すことを楽しんでいたため、この経験から流すものに興味を示しても面白そうだと感じました！

このように普段からビー玉転がしを楽しむ中で、ピタゴラコースを作った際に、コースの上を走るビー玉の動きを楽しむ様子が見られていました。またコマが回る様子をじっくり見たり回して遊んだりと、“動き”の面白さに興味を持ち、繰り返し夢中になる姿がありました。一方、園庭での水遊びを通して水のピタゴラを作り、水の流れや動き、その仕組みを試行錯誤しながら楽しむ姿も見られ、【“転がる”や“回る”動き】の面白さを感じ、更に探究してほしいと考えました。速さの違いが生まれる不思議さや、速度によって変化する面白さをじっくりと楽しみ、日常の中でも”なぜ？”と考え、新しい発見や学びとの出会いが生まれるきっかけになってほしいと思い、様々な素材を準備しました。

コッコロ・フィラーレ

VELOCITA LABO
ヴェローチタ ラボ

2025.10.18

今年のコッコロ・フィラーレでは、半歩先の遊びをと、「動き」をテーマに様々な角度から子どもたちの興味や感性に働きかけていきました。物や性質、重さによって転がるスピードが異なることや、回るという面白さに気づけるように、天秤や様々な大きさ・重さのボール、その物をじっくり観察できる虫眼鏡、回転台などを用意しました。ブースに分けて体験できるよう準備し、保育士だけではなく保護者の方にも協力をいただき、子どもたちの気づきや発見が翌週からの遊びへと広がり、より豊かな展開へと繋がり、「学びの芽」「興味の芽」が生まれていくことを願い、アプローチしていきました。

コロン研究室

ガチャガチャのボールよりも木のボールの方が重いな～

ガチャガチャのボールよりもスーパーボールの方が速かった！

違うボールを乗せて同じ重さにしたい！

フレール研究室

砂がキラキラしてる！

水がプニプニしてて気持ちいいな～

綿の上はボールが転がらない！

ウレタンスポンジの上は手で押すと転がる！

グール研究室

２色使うと違う色になったよ！

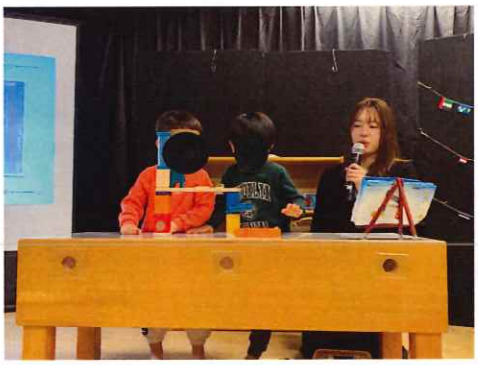
目が回る～！
綺麗な色だよ～！

水滴が動いて形が変わちゃった！

（模様）を虫眼鏡で見ると紫に見えるね。

子どもたちは、素材や角度、方法によって変化する速さに触れて楽しんでいました。同じ形でも重さや質感が違うことで速さが変わることを発見したり、動きを目で見るだけでなく身体で感じたりしながら体験したくさんの楽しさや疑問、不思議さを感じていたようです。また、回転の力で模様が生まれ、水滴の動きの変化に感動を覚えていました。身の回りの"不思議"を実際に見て、触れて感じる中で生まれた探究心の広がりを感じます。今回コッコロで体験したこと、感じたことを翌週からの保育に取り入れ、子どもたちがその後どう続きを楽しんでいくのか楽しみにしています。

感謝祭でのピタゴラの発表



感謝祭では子どもたちがこの１年で興味を持って取り組んできたことを保護者の前で発表します。年中児の男の子は、様々な素材を使ってピタゴラを１から作りました。高さを出すにはどうしたらいいのか考えたり、微調整をしたりする姿が印象的でした。完成すると表情も笑顔に変わり、達成感を感じられました。

〈振り返り〉

"動くもの"に対して子どもたちが興味を持ち始め、その興味がどう広がるか、またそこにどんな学びを探求してほしいかを保育士同士で話し合い、環境の準備をしてきました。そんなアプローチから子どもたちが試行錯誤をしたり、より回ることや速さ、物の性質によって変化が見られることを面白がったり探求したりする様子が見られました。また作るだけではなく年上の子が遊んでいる姿を見て、年下の子の遊びが繋がり、異年齢の関わりが生まれていることも感じられました。感謝祭で自信を持って発表する姿からは、保護者の方も子どもたちの成長を感じていたようです。

コッコロで体験した経験をもとに身の回りのものへの"なぜ？""どうして？"という探求心が生まれていたので、更に学びを深めていってほしいと思います。

テーマ：表現「美しさへの探求と広がり」

きっかけ

様々な素材を使い、子どもたちが想像する物事や感じたことを自由に表現することを楽しみ、豊かな感性を育むため。子どもたちの表現の幅を拡げたり深めたりしていくため。

【色に興味を持つ姿から…】

色水に光を当てて美しさを感じたり、塗り絵や描画ではたくさんの色を使って表現することを日々子どもたちは楽しんでいました。そんな"色"に興味を持つ一人の女の子から「虹色の色水を作りたい」という思いをきっかけに色の活動が始まりました。色彩表を見ながら色の混ざり合いから作り方を考えたり、色の違いを感じたりする姿がありました。そして色水だけではなく絵の具で色を作ったり、色にこだわりながら作品を作ったり、様々な遊びの中で色に注目しながら遊び込む姿が見られています。

絵の具で色作りをする子どもたちの姿から【みんなのカラーチャート】という色の一覧を作り始めました。「色を作りたい」と色の本から作りたい色を選び、絵の具で少しずつ色を混ぜ合わせながら色作りに夢中になっています。得意な人が色の作り方を教えてくれたり、色の名前を覚えたり、色についての興味も深めているようです。また、外にある色にも注目し、園庭では【色探し】や【色鬼】を楽しむ姿があります。自然物の絶妙な色の違いを感じながら、色の面白さを感じています。

子どもたちの色に興味を持つ姿から部屋に色の本や掲示、色を表現できる素材などを用意し、子どもたちの興味がより深まるようなアプローチをしています。

色水作り

園庭では、スポイトで一滴ずつ色を微調整しながら作る姿がありました。色をたくさん混ぜながら、途中で作りたい色の表を見て「**同じかなぁ**」と色を見比べる姿もありました。色の表を見ながら作り、この日は、水色とオレンジが完成し、太陽の光に当てて「綺麗～！」と一緒に話をしていました。

色水をライトテーブルに並べて…

色水を手に取り、ライトテーブルの上で並べたり、ライトテーブルの上だからこその色の違いを感じたりする姿がありました。その姿をきっかけに、他の子どもたちもライトテーブルの上で色水を積み木のように積んでタワーを作ったり、転がして楽しんでいました。

また色水を並べて【色水ジュース屋さん】をしたいと準備が始まりました。

園庭で色探し

園庭にある色を探すことも楽しみ始めました。この日は柿の実を拾い「見て見て」と互いの実を見せ合っていました。一つひとつ色が異なることに気づいた保育士が「みんなの実は何色だった？」と声をかけてみると、**それぞれが感じた様々な色**が飛び交っていました。

これはクリーム色みたいに見える！

私のは黄色だよ！

ちょっと緑っぽい！

気持ちと色が結びつく

塗り絵に夢中になる子どもたちの姿があります。「塗り絵やりたい」とプテラノドンの塗り絵に手を伸ばし、どんな色で塗るのか見守っていると、**「プテラノドンの口にいる魚が寝ているみたいだよ」**と面白いことに気づきました。「どうして寝ているのかな？」という保育士の声かけに、**「プテラノドンに食べられて死んじゃっているのかな」**と伝えました。すると、**「死んじゃうのは悲しいことだから"黒"で塗る」**と魚の気持ちを表現する色を考えながら塗る姿がありましたよ。

「このうさぎは眠い気持ちかな」「眠い気持ちの色は"青"かな」とうさぎの気持ちに寄り添い、色を考えていました。

赤と薄い肌色の混ざり合い

水色となんど色の混ざり合い

色に興味を持つ子どもたちは、色について調べたり、好きな色を作ったり、様々な方法で表現することを楽しんでいます。その中でも**【絵の具】**で表現することに楽しさや面白さを感じているようで、これまでに作った素敵な作品で溢れています。最近は、筆以外にも素材や廃材などを使って表現することも楽しみ、絵の具の新たな楽しみ方を知りながらより面白さを感じていました。

アート展　　8月頃

今まで描いた作品を**「友だちに見て欲しい」「パパとママに見て欲しい」**という思いから、飾る場所を考えました。「廊下だったらみんなが見やすいかも！」と飾る場所を廊下に決め、保育士と一緒に飾り方を考え、「アート展みたいにしよう！」と一緒にイメージを膨らませ、準備を始めました。わかりやすいように【アートてん】と看板を作ったり、「ビー玉でやった（描いた）よって書きたい」と話す姿から説明書きを作ったり、みんなが見て"楽しい！""すごい！"と思えるようなアート展を完成させました。

ストローを使って表現

アートてんにまだ作品が飾れることに気付き、「作りたい！」「何で絵の具やろうかなぁ」と話す姿がありました。保育士からの提案でストローで絵の具を吹く方法をやってみることにしました。初めは吹く量が少なくて難しさを感じていましたが、段々とやり方を理解し、「できた！」と**絵の具が広がる様子に面白さを感じる姿**がありました。完成した作品は、アート展に飾りました。

絵の具の氷

2025.9.5（金）

保育士が用意した絵の具遊びの提案ファイルを見て、**「この氷の絵の具やりたい！」**と目を輝かせて話す子どもの姿がありました。絵の具の色水を凍らせ、その絵の具の氷で描いてみるというやり方を理解すると「オレンジとピンクがいい！」「紫にしようかな～」と自分の作りたい色を考えて作り始めました。「この中（製氷器の中）に色を塗ってから水を入れて凍らせたい」と作り方についても自分たちで考える姿があり、完成した氷がしっかりとイメージされていることが伝わってきました。「明日どうなってるかなぁ！」とわくわくした表情を浮かべながら冷凍庫に入れていましたよ。

翌朝冷凍庫から出してみると…？

冷凍庫から出してみると、「冷た～い！」「カチコチになってる！」と氷になっていることが分かり、大興奮な２人です。「アイスみたい！美味しそう！」などと思わず口に入れてしまいたくなるほど魅力的に見えたようでした。早速画用紙に描いてみると、いつもの絵の具とは違って水っぽくなり、他の色を重ねると色の混ざり合いがよく見えることが分かりました。色の混ざり合いと氷の滑りやすさに面白さを感じる姿があり、自分の好きな色を選んでどんどんと描き進めていきます。氷なので溶けてしまうことにも気付き、「水になっちゃった～！」と少しずつ小さくなる様子を見て驚く姿もありました。

子どもたちの大好きな絵の具を使って他にも楽しみ方を考えていきました。

氷に光を当ててみると…「宝石みたい！」

2025.9.11（木）

園庭で楽しんでいる雨どいピタゴラをきっかけに、色をつけて作った氷に興味を持つ姿が見られます。雨どいピタゴラで転がす氷作りの中で色水で作った氷の色や光を通した時の美しさを感じ、「宝石みたい！」と話す姿がありました。そこから氷を宝石に見立てて、「次はどんな色にしようかなぁ」などと考えながら色を重ねて凍らせ、宝石を作ることや、光を当てて氷の観察をすることを楽しんでいます。氷だからこそ色がまだらになって固まっている様子や、光の透き通りで綺麗に見える様子に興味を持っているようです。

今日の宝石は
何色になってるかな？

翌日「氷見たい！」と冷凍庫に取りに行きました。氷の宝石はこれまでの色の積み重ねが分かりやすく見え、「**中が青で周りが紫になってる！**」と話す姿がありました。今までも氷の宝石をライトで照らして観察をしていたので、「ライトで照らしてみる！」と観察を始めました。近くでライトを当てることでより色の美しさや氷のひび割れなどが見え、「わぁ～！」と感動する姿がありました。2人の中でより暗い場所で見たい思いが生まれ、暗い部屋に移動して観察をしてみることにしました。カップを宝石置きにし、ライトを当ててみるとまるで本物の宝石のようになり、2人も「**綺麗！**」「**すごい！**」と感動と興奮が止まらない様子でしたよ。**"本物のように氷の宝石を作りたい"**思いがある2人なので、宝石に詳しい人に聞いたり、図鑑を見ながら「アクアマリンに似てる」「アメジストみたいになった」などと本物の宝石とも比べがら観察したり、作ったりすることを楽しんでいます。

2025.9.12 (金)

宝石図鑑を作っています

引き続き氷の宝石作りを楽しんでいます。毎日光を当てて観察したり、「次は何色にしようかなぁ」と色水を作って足したり、本物の宝石のように作りたいという思いを持ちながら夢中になっています。そんな2人から「**作った氷の宝石を記録したい**」という思いが生まれ、図鑑を作ることを提案してみました。早速昨日の夕方からどんな図鑑を作りたいか考え、これまでの氷の宝石の写真を印刷したり、書きたいことを考えたりしました。**"本物のように"**という思いから宝石の図鑑や誕生石の一覧表を使って似ている宝石を見つけ、その似ている宝石の絵と氷の宝石の写真を図鑑に載せることに決めました。

真珠って何色だろう？

以前絵の具の白色の色水で作った氷を図鑑に載せたい思いがあり、「何の宝石に似てるかな？」と探し始めました。誕生石の一覧表を見ながら「**なんか真珠に似てない！？**」と真珠を描き始め、「真珠って何色だろう？」と色をよく見て考えます。「白と灰色かなぁ」と色鉛筆を手に取り、真珠の色を表現し始めたのですが、「難しい…」と呟く姿がありました。そこで、保育士から色の本を用意し、「この中に真珠に似てる色はないかな？」と声を掛けてみました。「白のページにあるかも！」と友だちと探し始め、【パールホワイト】という色を発見しました。「パールって真珠のことだよ」と保育士から伝えると、「これじゃん！」と目を輝かせて話し、色をよく見ながら真珠の色を表現することができました。

宝石と色

これまでの氷の宝石を図鑑に載せています。「トルコ石に似ている」と話し、絵を描く姿がありましたが、この日は誕生石の中からではなく、図鑑の中から似ている宝石を見つけ出し、「**珪(けい)くじゃく石**に似てるかも」と話す姿がありました。早速図鑑を見ながら描き始め、「こんな感じの色かなぁ」と色の混ざり具合を見ながら描き進めていきます。保育士が色の本を用意すると、「珪(けい)くじゃく石に似てる色はあるかな」と探し始めました。すると、「ターコイズブルーって色があるじゃん！」と宝石と同じ名前の色を見つけ、大興奮！！その他にも【アクアマリン】や【翡翠色】など誕生石と同じ色の名前を見つけて話をする姿がありました。真珠に続き、宝石の名前と色の名前の繋がりを発見することができたようでした。

宝石の図鑑作りをしたことで、色と宝石の繋がりを感じることができました。クラスで盛り上がっている色の興味とも繋げながら宝石の興味を深めたり、面白さを感じていけたらと思います。

光と影のふしぎ

日々の光への興味から、１歳児クラスでも部屋を暗くしてライトを持って遊んでいます。遊びの中での気付きがいくつもありました。

この日、ライトを持って子どもが壁の方を照らすと「ん？何だあれ！？」と向かいます。見つけたのは玩具のカゴ（編み目状になったもの）の影でした。ライトを壁に向かって当てると影が消え、「あれ？」と消えた事に驚いていました。その後カゴにさまざまな方向からライトを当て、当て方によって変わって動く影をじっと見つめていました。

別の日には、保育士が投光器を棚の上に配置し、子どもたちがどのような反応をするか見守っていました。すると、歩君が投光機の前に偶然立った時に、正面の壁に大きく子どもの影が映し出されました。それを見た瞬間「うわ！いた！」と飛び上がり、駆け足で自分の影に向かっていきました。子どもが影に近づいていくと影がどんどん小さくなっていきます。影を捕まえようと片手を伸ばし壁に触れるも、感触がないからか、何度も自分の影と壁をタッチしていました。

このように影に気づき、影の特性や不思議さに興味を持ちながら全身を使って感じています。これからも光や影に触れられるよう環境を整えていき、子どもの好奇心がもっと広がるようにしていきたいです。

素材をどう使う？

室内の玩具を様々な物に見立てる姿があります。そこで素材を用意し、子どもたちが触れる機会を作りました。子どもたちには、その中で色々な発想や五感を使ってほしいと願いを込めています。

棚の上に置いてあった投光器を指差し「これとって！」と保育士に言います。投稿機を受け取ると床に置き、その上に透明のカップを積んでいきました。コップを重ねると更に上に豆腐の容器を重ねようとしますがバランスが崩れ倒れます。しかし、そこで止めるのでなく別のカップを持ち、再び積み上げていきました。バランスが保たれると安堵したような表情をし、別の遊びに向かいました。“高くしたい”気持ちと“崩したくない”気持ちがあり、それを試行錯誤しながら進めていたようです。今回、投光器の上に置いたことで見え方の変化にも気づいていたかもしれません。

ネイルへの興味

２歳児クラスでは色への興味から、ネイル遊びへと発展していました。最初は色鉛筆で爪に色をつけようとしている姿があったのですが、塗るものが絵の具へと変化し、保育士がより“本物の”遊びができたらと、絵の具にベビーオイルを混ぜた手作りマニキュアを用意しました。

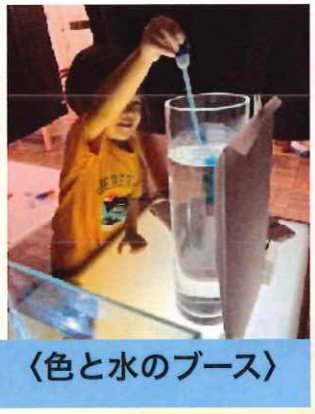
色鉛筆よりも先端が太く柔らかい筆で、塗り絵よりもかなり狭い範囲である爪を塗るということに難しさを感じているようでしたが隣にいる保育士に「先生の手に塗ってみたい！」と言います。保育士の爪に塗ってみると、「先生の爪、大きいからはみ出ない！」と目を丸くします。しばらくすると「出来た！！！」と保育士に見せます。何度も塗り直してやっと満足のいく仕上がりになり、その笑顔からは達成感が満ち溢れていました。今まで色々な人のネイルを見てきて、“こんな風に塗りたい”というイメージがあったからこそ、はみ出しても何度も塗り直す姿があったのではないかと感じます。マニキュアを出してから毎日のように塗っていますが、「これ混ぜたら綺麗になるかな」「先生の手にも塗ってあげる！」等、色の重なりや自分以外の人に塗る事も楽しむようになりました。

コッコロ・フィラーレ　　１０月頃

日常の中で何気ない瞬間に感じている【色】、子どもたちにとって身近な【色】への興味を更に深められるようにと、素材や感触など、新しい視点で『色』を感じられるように様々な素材を環境に用意しました。

色と水のブースでは、静かな空間で真剣な表情で観察しています。色の広がりや動きだけでなく、見る向きによって見え方が違うことにも気づいていました。素材と感触のブースでは「ざらざらする」「ふわふわ～」と手の平で感じながら、表現していました。コンテの粉を少しずつ乗せ、色の小さな変化を楽しんでいました。色の混ざりを予想したり、初めて触れる色の表現や感触に驚いたり、今までの経験からの繋がりとその広がりを感じました。また、コロコロと変わる子どもの表情から、とても刺激ある時間だったように感じます。身体や五感を使って『色』に触れ、感じ、子どもたちの表現が広がった体験となりました。

〈素材と感触〉



〈色と水のブース〉

〈自然物ブース〉

〈デカルコマニー〉

コッコロ後

コッコロ当日【色】のブースに展示していた【これって何（植物・果物）からできた色？】を見たことを思い出し、園庭に咲いている花を見つけると、花で色水を作り、クイズに出して遊ぶ姿もありました。

自然物だからこそ出る色の美しさを感じたり、花への興味の深まりにも繋がったりしていました。

また、新たな素材を使って色を表現することを楽しんでいます。

ピアッツァ

自然の中で色をきこう

保護者の方が【ライブペイント】を披露してくださりました。アーティストの方に演奏していただき、その場の空気や周りの情景を感じながら、音楽を聴いて描かれるその絵を、真剣な表情で見惚れる子どもたちの姿がありました。ライブペイントの後には子どもたちも実際に手や筆を使い、ダイナミックに描いて表現しました。

素敵な作品は、
園内に飾りました。

感謝祭

1年間興味を持って取り組んできたことを保護者の前で発表する感謝祭（子どもの成長に感謝する日）では、色への興味を深めてきた子どもたちがそれぞれグループごとに発表内容を保育士と考えて準備しました。

色水ジュース屋さん、アート展、宝石の発表の中で、色の細やかな混ざり合い、様々な素材を使うことでの表現の面白さ、色をつけた氷に光を通す綺麗さなど、子どもたちが発見してきたことや学んできたことなど、自分たちの言葉や姿で楽しそうに、また真剣に伝えていたのが印象的でした。

〈振り返り〉

“色”の興味が広がり、色への関心を持ちながら本で調べたり、様々な方法で表現したりすることを楽しんできました。自分で色を作り出すということにも面白さを感じ、子どもたちにとって【色】や【絵の具】を使うことが当たり前で欠かせないものとなっていました。絵の具に何かを組み合わせることでより面白さを感じられることを発見し、廃材や素材、自分の体を使って絵の具の性質や色の混ざり合いを感じたり、「最高の一色を作りたい」という思いから、色水を一滴ずつ慎重に垂らしたり、イメージと違う色になると作り直したりして、色に対する探究心が生まれていました。

また、色への興味が広がる一方で、水遊びの時期に”氷作り”に興味を持ち始めました。それぞれが遊びを深めている中で、【色】を混ぜた氷を作ることで、色や光を通した時の美しさを感じたり、「宝石みたい！」とイメージが広がり、そこから氷を宝石に見立てたり、考えながら色を重ねたりして観察することを楽しんでいました。作った宝石の移り変わりや魅力を感じ、氷の宝石でしか味わえない美しさや面白さを感じていたようです。

上記のように色を作って楽しみ、色の美しさを感じる姿は多く見られたが、子どもたちがもっと色の世界を堪能できるように色の発見・探究を突き詰めらる保育士側のアプローチができればよかった。また大人にはない色の感じ方を引き出せるよう、子どもたちの持つ色のイメージを豊かに表現できるように関わっていきたい。さらに【宝石】への興味は、自然や世界への興味・探究へと繋がっていくような保育士の働きかけも必要だと感じた。